

# 山行報告書

報告書作成

2005年12月29日

山名 [山域]	京都北山 (芦生)	目的と方法	晩秋の自然林と溪谷美観賞
登山期間	12月3日 ~ 12月4日	山行形態	テント泊(前夜泊 + 1泊2日)
参加人数	5名		

## 行動記録

12/2(金) 旧岡崎市民病院P K G (19:50) == 養老S A == 関が原IC == R365 == 木の本 == 生杉T S 1 (23:50)  
 12/3(土) T S 1(7:20) -- 地蔵峠(8:00) -- 中山神社 -- 長治谷キャンプ場(8:25,9:00) -- 野田畑分岐(9:30,9:40)  
 -- 野田畑峠(10:15,10:25) -- シンコボ(11:25,11:35) -- 野田畑峠(12:20,12:40) -- 野田畑分岐(13:10) -- 長治  
 谷キャンプ場(13:35) T S 2 12/4(日) T S 2(7:20) -- 八宙山(8:40,8:45) -- 傘峠(8:55,9:00) -- プナの木峠  
 分岐(10:10) -- プナの木峠(10:25,10:35) -- ケヤキ峠(11:10,11:25) -- 長治谷キャンプ場(13:00,13:40) -- 地蔵  
 峠(14:00,) -- 生杉P K G (14:20,14:40) == くつき温泉 [てんくう] == 木の本IC == 岡崎IC == 旧岡崎市民病院P K G  
 (20:00)

## 概念図



## 日誌

12/3(土) 小雨時々曇り テントST1林道ゲ - ト前20台位駐車出来、トイレもある。小雨の中カッパを着て出発する。地蔵峠まで林道に行くが山は雪化粧して、杉木立のシルエットがきれい。地蔵峠で入林届を出し谷に降りる。中山神社を過ぎ細い木の橋を渡ると長治谷キャンプ場に着く。広々した明るい所で避難小屋もあるが、閉まっていて中の様子は見られない。少し離れた所にトイレもある。テントを張り軽いザックで由良川源流部をつめ、シンコボに登り尾根を通過して戻ることになった。野田畑分岐より明るい湿原になりブナ、トチなど巨木が見られる。流れはうねうねと蛇行し、自然そのままの風景が見られる。谷をつめる事が出来なくなり、尾根に這い上がる。尾根道にはイワウチワの群生がずうっと続いている。シンコボ(811.4m)は少し開けたピ - クである。展望はえられず10分程で下る。尾根からは苔のついた倒木が散らばって幾何学模様を作り出している、きれいな光景を見ることが出来た。長治谷キャンプ場には早くついたので、かも鍋、そばがき、などでゆっくりと楽しい時間を過ごす事ができた。 T S 2 12/4(日) 曇り時々小雪 登りを往きに下谷を下りにとる様に予定を変更する。下谷と上谷の合流点よりすこし行ったところで川原に降り石ずたいに川を渡る。尾根まで急登が続く。ここでもブナ、ヒノキ、など立派な木が見られ足元には落ち葉にかくれた岩うちはなど見られる。八宙山、傘峠、とアップダウンを繰り返す。コースは踏み跡が見える季節であれば歩けるかと思う。自然が作り出す大木のオブジェを楽しみ、歌、俳句など詠みながら歩く。林道が見えてくるとまもなくブナの木峠の分岐でひとりでブナの木峠(頂上)939.1mである。下りの分岐の所で今日始めての人に出会った。今年だけで、42回も芦生の森に通って見えるとの事いろいろ情報をお伺いした。この頃より青空も見え始めキラキラ輝く樹氷がきれい。ケヤキ峠で小休止し、そのまま林道をしばらく歩き、天然記念の桂の大木の少し前で谷に降りなだらかに流れる川を何回も渡る。林道に戻りそのまま長治谷キャンプ場までゆく。テントを撤収し帰路は来た時と同じ地蔵峠を経て生杉P K Gまで林道を歩く。朽木温泉 [てんくう] に入り岡崎に20時に到着した。

\* さくさくと新雪ふんでめぐりゆく芦生の森の美女四人 Hさん \* 新雪や美女におとらぬ雪化粧 Hさん  
 \* 由良川の源流たずね雪にあう Sさん \* みあげれば小雪にかすむブナしずか